

障害者スポーツの総合国際競技大会の関係

競技性

オリンピック

デフリンピック
ICSD

聴覚障害

- デフリンピックは障害当事者自身が運営しており、スタートの音や審判の声による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同じルールで運営される。
- 海外においては、オリンピックでメダルを獲得したデフ・アスリートもいる。

【写真：デフリンピックにおけるスタートの工夫】



パラリンピック
IPC

IWAS、CPISRA、IBSA、INAS
【切断・車いす】 【脳性麻痺】 【視覚障害】 【知的障害】
等の障害種別世界大会

障害の種類や区分に応じてクラス分け

身体障害
(聴覚を除く)

知的障害

- パラリンピックは、身体障害者(視覚障害者含む)と知的障害者(一部競技)が参加できる。
- 競技毎に障害の種類や程度に応じてクラス分けをしており、クラス毎にメダルを授与している。
- 海外においては、オリンピックとパラリンピックの両方に参加したパラリンピアンもいる。

※「競技性」の高低は、大会の性質(主として下線部)に照らして分類したものであり、競技レベルの高低を分類したものではないことに留意。

スペシャル
オリンピック
SOI

知的障害

- スペシャルオリンピックは、知的障害者に様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場(競技会)を提供するもの。
- 記録ではなく、日常的・継続的なスポーツ活動を通じて、自己を成長させることを重視している。
- スペシャルオリンピックには、頑張った全てのアスリートを称え、全員を表彰するという特徴がある。

身体障害

聴覚障害

肢体不、切断、脳性麻痺、視覚 等

知的障害

デフリンピック(概要)

運営主体

国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD)

概要

- ・4年に一度、世界的規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会。
- ・デフリンピックでは全てのコミュニケーションが国際手話により行われる。
- ・視覚的な工夫(スタートの音を足下のライトの点灯で知らせたり、審判の声による合図を旗で知らせたりするなど)以外はオリンピックと同じルールで運営される。
- ・安全を確保するため、競技中の補聴器の使用は禁止されている。

参加資格

補聴器を外した裸耳状態での聴力損失が55デシベルを超え、各国のろう者スポーツ協会に登録している者

参加国・人数

夏季大会(86か国・2,859人)

サムスン/トルコ(2017年)

冬季大会(27か国・336人)

ハンティ・マンシースク/ロシア(2015年)

開催規模

夏季大会(全21競技)

…陸上、バスケットボール、バレーボール、サッカー、柔道、ビーチバレーボール、バドミントン、卓球、水泳、テニス、空手、自転車、ボウリング、テコンドー、射撃、レスリング(フリースタイル)、レスリング(グレコローマン)、マウンテンバイク、オリエンテーリング、ゴルフ、ハンドボール

冬季大会(全5競技)

…アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリー、アイスホッケー、カーリング

次回大会

夏季大会

2021年 第24回夏季デフリンピック競技大会(場所未定)

冬季大会

2019年 第19回冬季デフリンピック競技大会 ヴァルテッリーナ地方(イタリア)

パラリンピック(概要)

主催

国際パラリンピック委員会(IPC) (本部:ドイツ(ボン))

特徴

オリンピック終了後に同じ開催地で開催される、障がい者スポーツの最高峰の大会(聴覚障害者を除く)。

4年に1度、夏季競技大会と冬季競技大会が開催されている。

実施競技

夏季第16回 2020年 東京(日本)

…22競技 陸上競技、水泳、卓球、柔道、アーチェリー、ボッチャ、自転車、馬術、5人制サッカー、ゴールボール、パワーリフティング、ボート、射撃、シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、ウィルチェアーラグビー、車いすテニス、トライアスロン、カヌー、バドミントン、テコンドー

冬季第12回 2018年 平昌(韓国)

…6競技 アルペンスキー、バイアスロン、クロスカントリースキー、スノーボード、アイスホッケー、車いすカーリング

参加状況

夏季第15回 2016年 リオデジャネイロ(ブラジル)

…世界159か国・地域4,316名

冬季第12回 2018年 平昌(韓国)

…世界49か国・地域570名

次回大会

夏季第16回 2020年 東京(日本)

冬季第12回 2022年 北京(中国)

スペシャルオリンピックス世界大会(概要)

○概要

- ・4年に1度、夏季及び冬季に開催される知的障害者のスポーツの世界大会。
- ・全てのアスリートを称え、全員を表彰するといった特徴がある。

○運営団体 スペシャルオリンピックス(SO)

(本部:アメリカ(ワシントンD.C))

○実施競技(直近大会)

夏季第15回 2019年 アラブ首長国連邦(アブダビ)
 24競技 バドミントン、バスケットボール、柔道、
 ローラースケート、卓球、バレーボール、ボッチャ、
 ボーリング、サッカー、体操、新体操、競泳、テニス、
 ビーチバレーボール、馬術、ハンドボール、カヤック、
 オープンウォータースイミング、セーリング、陸上、
 自転車、ゴルフ、パワーリフティング、トライアスロン

冬季第11回 2017年 オーストリア(シュラートミンク)

9競技 アルペンスキー、クロスカントリースキー、
 スノーボード、スノーシューイング、フィギュアスケート、
 ショートトラックスピードスケート、フロアホッケー、
 フロアボール、スティックシューティング

○次回大会

- ・夏季大会第16回 2023年 場所未定
- ・冬季大会第12回 2021年 スウェーデン

夏季				
回	年	開催国(都市・州)	参加国地域数	選手数
1	1968	アメリカ(シカゴ)	3	1,000
2	1970	アメリカ(シカゴ)	3	2,400
3	1972	アメリカ(ロサンゼルス)	3	1,500
4	1975	アメリカ(ミシガン州)	12	2,000
5	1979	アメリカ(ニューヨーク州)	20	2,500
6	1983	アメリカ(ルイジアナ州)	48	4,000
7	1987	アメリカ(インディアナ州)	60	4,500
8	1991	アメリカ(ミネソタ州)	107	6,000
9	1995	アメリカ(コネチカット州)	145	7,000
10	1999	アメリカ(ノースカロライナ州)	150	7,000
11	2003	アイルランド(ダブリン)	166	7,000
12	2007	中国(上海)	169	7,000
13	2011	ギリシャ(アテネ)	170	6,961
14	2015	アメリカ(ロサンゼルス)	165	6,500
15	2019	アラブ首長国連邦(アブダビ)	190	7,500
冬季				
回	年	開催国(都市・州)	参加国地域数	選手数
1	1977	アメリカ(コロラド州)	2	346
2	1981	アメリカ(バーモント州)	7	600
3	1985	アメリカ(ユタ州)	14	825
4	1989	アメリカ(ネバダ州 カリフォルニア州)	27	1,000
5	1993	オーストリア(ザルツブルグ)	51	1,200
6	1997	カナダ(トロント)	82	1,780
7	2001	アメリカ(アラスカ州)	80	2,000
8	2005	日本(長野)	84	1,829
9	2009	アメリカ(アイダホ州)	100	2,200
10	2013	韓国(ピョンチャン)	113	3,300
11	2017	オーストリア(シュラートミンク)	107	2,700